古文単語 活用形から見出し語へ ④

高校／下二段・ラ変・カリ活用・ウ音便もまぜて、もどす

名前 _____

日付 _____

——線の語を、見出し語（終止形）にもどし、右の3つの枠に、左から順に見出し語・活用の種類・活用形を書きなさい。
活用表には、下二段活用・ラ行変格活用が入っています。カリ活用や、ウ音便になった形も出てきます。
活用の種類は行まで書きます（例：動詞ナ行四段活用）。枠には2行に分けて書いてもかまいません。

	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形
形容詞ク活用	く・から	く・かり	し	き・かる	けれ	かれ
形容詞シク活用	しく・しから	しく・しかり	し	しき・しかる	しけれ	しかれ
形容動詞ナリ活用	なら	なり・に	なり	なる	なれ	なれ
動詞四段活用	ア段	イ段	ウ段	ウ段	エ段	エ段
動詞下二段活用	エ段	エ段	ウ段	ウ段＋る	ウ段＋れ	エ段＋よ
動詞ラ行変格活用	ら	り	り	る	れ	れ

「から・かり・かる・かれ」「しから・しかり・しかる・しかれ」は、カリ活用（補助活用）の形。
形容詞の連用形「く・しく」は、「て」などの前で「う・しう」になることがある（ウ音便）。

1 夕月夜のをかしきほどに出だし立てさせたまひて、やがてながめおはします。（源氏物語・桐壺）

見出し語	活用の種類	活用形

2 「親・君と申すとも、かくつきなきことをおほせたまふこと。」（竹取物語）

見出し語	活用の種類	活用形

3 露霜にしほたれて、所さだめず……（徒然草・第三段）

見出し語	活用の種類	活用形

4 かぐや姫のいはく、「なでふさることかしはべらん。」（竹取物語）

見出し語	活用の種類	活用形

5 われも人も、宿世のつたなかりければ、ありありてかく遥なる国になりにたり。（更級日記）

見出し語	活用の種類	活用形

6 唐めきたる名の聞きにくく、花も見なれぬなど、いとなつかしからず。（徒然草・第百三十九段）

見出し語	活用の種類	活用形

7 家にあり人に交はるとも、後世を願はむにかたかるべきかは。（徒然草・第五十八段）

見出し語	活用の種類	活用形

8 いとどこの世のものならず清らにおよすげたまへれば、いとゆゆしう思したり。（源氏物語・桐壺）

見出し語	活用の種類	活用形

いちごドリル プリント

つづきの無料プリント
「古文単語プリント」のプリント一覧がひらきます

古文単語 活用形から見出し語へ ④【こたえ】

名前 _____

高校／下二段・ラ変・カリ活用・ウ音便もまぜて、もどす　　日付 _____

赤い字がこたえです。「→」は活用形を決めた手がかり（下に続く語）です。
形が同じになる活用形（「く」の未然形と連用形など）は、下に続く語で1つに決めます。

	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形
形容詞ク活用	く・から	く・かり	し	き・かる	けれ	かれ
形容詞シク活用	しく・しから	しく・しかり	し	しき・しかる	しけれ	しかれ
形容動詞ナリ活用	なら	なり・に	なり	なる	なれ	なれ
動詞四段活用	ア段	イ段	ウ段	ウ段	エ段	エ段
動詞下二段活用	エ段	エ段	ウ段	ウ段＋る	ウ段＋れ	エ段＋よ
動詞ラ行変格活用	ら	り	り	る	れ	れ

「から・かり・かる・かれ」「しから・しかり・しかる・しかれ」は、カリ活用（補助活用）の形。
形容詞の連用形「く・しく」は、「て」などの前で「う・しう」になることがある（ウ音便）。

1 夕月夜のをかしきほどに出だし立てさせたまひて、やがてながめおはします。（源氏物語・桐壺）

→ 下に用言「おはします」 → 連用形（未然形と同じ形）

見出し語	活用の種類	活用形
ながむ	動詞マ行下二段活用	連用形

2 「親・君と申すとも、かくつきなきことをおほせたまふこと。」（竹取物語）

→ 下に補助動詞「たまふ」 → 連用形（未然形と同じ形）

見出し語	活用の種類	活用形
おほす	動詞サ行下二段活用	連用形

3 露霜にしほたれて、所さだめず……（徒然草・第三段）

→ 下に接続助詞「て」 → 連用形（未然形と同じ形）

見出し語	活用の種類	活用形
しほたる	動詞ラ行下二段活用	連用形

4 かぐや姫のいはく、「なでふさることかしはべらん。」（竹取物語）

→ 下に助動詞「ん（む）」 → 未然形

見出し語	活用の種類	活用形
はべり	動詞ラ行変格活用	未然形

5 われも人も、宿世のつたなかりければ、ありありてかく遥なる国になりにたり。（更級日記）

→ 下に助動詞「けり」（けれ） → 連用形（カリ活用）

見出し語	活用の種類	活用形
つたなし	形容詞ク活用	連用形

6 唐めきたる名の聞きにくく、花も見なれぬなど、いとなつかしからず。（徒然草・第百三十九段）

→ 下に助動詞「ず」 → 未然形（カリ活用）

見出し語	活用の種類	活用形
なつかし	形容詞シク活用	未然形

7 家にあり人に交はるとも、後世を願はむにかたかるべきかは。（徒然草・第五十八段）

→ 下に助動詞「べし」（べき）。カリ活用の「かる」は連体形 → 連体形（カリ活用）

見出し語	活用の種類	活用形
かたし	形容詞ク活用	連体形

8 いとどこの世のものならず清らにおよすげたまへれば、いとゆゆしう思したり。（源氏物語・桐壺）

→ 用言「思し」にかかる → 連用形（ウ音便）

見出し語	活用の種類	活用形
ゆゆし	形容詞シク活用	連用形